

平成24年度
九州食料・農業・農村情勢報告のポイント
(トピックス編、動向編)

平成25年6月
九州農政局

平成24年度情勢報告の構成

○トピックス編

九州における重要な取組 6テーマ

○特集編

九州農業と自然災害

～地球温暖化を始めとする自然災害とのたたかい～

○動向編

- ・第1章 九州農業の主要指標の動き
- ・第2章 食料自給率向上と食の安全の確保に向けた取組
- ・第3章 農業の持続的発展に向けて
- ・第4章 農山漁村の活性化・多様な交流に向けて

○巻末資料

- ・農林水産祭表彰行事の農林水産大臣賞受賞者一覧
- ・参考付表

トピックス編 1 第10回全国和牛能力共進会長崎大会で 本文p3~4 九州勢が大活躍

- ・九州勢が2大会連続で全部門を制覇。
- ・48万6千人の来場者を集め、盛大に開催。
- ・口蹄疫からの復興を目指す宮崎と、開催県長崎が名誉賞を受賞。

第10回全国和牛能力共進会(長崎県大会)の成績

◎名誉賞

| | | | |
|------|-----|-----|---------------|
| 種牛の部 | 第7区 | 宮崎県 | 全国和牛登録協会宮崎県支部 |
| 肉牛の部 | 第8区 | 長崎県 | 全国和牛登録協会长崎県支部 |

◎各出品区の優等賞1席

| 出品区分 | 県 | 牛・系統・種雄牛名 | 出品者 |
|---------------|------|-----------|-----------------------|
| 第1区(若雄) | 大分県 | 光星 | 大分県農林水産研究指導センター |
| 第2区(若雌の1) | 宮崎県 | とみの3 | 松本範子 |
| 第3区(若雌の2) | 宮崎県 | ただふく6の2 | 永友 浄 |
| 第4区(系統雌牛群) | 宮崎県 | 美福10系 | 南那珂支所 |
| 第5区(繁殖雌牛群) | 大分県 | はな ほか | 玖珠郡和牛育種組合 |
| 第6区(高等登録群) | 鹿児島県 | ふじえ ほか | 始良支所 |
| 第7区(総合評価群) | 宮崎県 | 美穂国 | 種牛群:西諸県支所、肉牛群:小倉光彦 ほか |
| 第8区(若雄後代検定牛群) | 長崎県 | 福姫晴 | 渡部英二、古川繁信、喜々津昭 |
| 第9区(去勢肥育牛) | 宮崎県 | 末勝 | 福永 透 |



和牛の審査風景

- ・ 集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」となる、「人・農地プラン」の作成を推進。
- ・ 地域の話合いを通じ、担い手に農地を集積。
- ・ 新規の就農者を資金面からも支援。

人・農地プランの進捗状況
 (平成25年3月末現在)

| 県名 | 作成しようとしている市町村数 | プラン作成市町村数 | |
|------|----------------|-----------|-------|
| | | 市町村数 | プラン数 |
| 福岡県 | 53 | 49 | 217 |
| 佐賀県 | 20 | 20 | 131 |
| 長崎県 | 21 | 17 | 132 |
| 熊本県 | 45 | 41 | 212 |
| 大分県 | 17 | 17 | 101 |
| 宮崎県 | 26 | 26 | 179 |
| 鹿児島県 | 43 | 43 | 341 |
| 九州計 | 225 | 213 | 1,313 |
| 全国 | 1,560 | 1,312 | 7,573 |

資料：農林水産省「人・農地プランの進捗状況
 (3月末現在)について」(平成25年5月1日公表)

福岡県糸島市の
 「人・農地プラン」

【人・農地プランの概要】

今後の地域の中心となる経営体：431経営体

集落営農組織 2組織

法人 24組織

個別経営 405名

(うち新規就農者 33名)

連携する農業者：29経営体

(提供予定農地面積：90筆 17.5ha)

確立・普及について

- ・ これまで野菜の土壌伝染性病虫害を防除するために限定的に用いられてきた臭化メチル剤が使用禁止(平成24年12月末)。
- ・ 代替農薬や新たな手法による栽培技術の確立に取り組む。

「脱臭化メチル栽培マニュアル」のポイント

露地しょうが産地の栽培技術(熊本県)

4つのCが合い言葉

| | |
|-----------|--------------------|
| Check | 残さがないか 確認 |
| Change | 薬剤の使い方を 替える |
| Choice | 健全な種を 選ぶ |
| Challenge | 輪作体系に 挑む |

きゅうり産地の栽培技術(宮崎県)

残さの腐熟処理(約3ヶ月)

- ①残さの抜き取り
- ②牛ふん堆肥の施用
- ③耕起
- ④土壌水分の調整



熊本県内のしょうが産地における生育期の
灌水チューブを利用した農薬施用状況

促成栽培ピーマン産地の栽培技術(鹿児島県)

土壌汚染度に応じた技術の導入

| | | |
|---|---|---------------|
| 低 | い | 残さ腐熟促進 |
| 中 | 程 | 残さ腐熟促進+生分解ポット |
| 高 | い | 残さ腐熟促進+植物ワクチン |

「筑後川下流白石平野地区」が完了

- ・ 恒常的な用水不足、地下水くみ上げによる地盤沈下に対応するため、平成12年度にかんがい排水事業に着手。
- ・ 24年度に通水試験を行い揚水機場等の施設の機能を確認。本格的な水利用を開始。

本事業の目的

1 安定的な用水供給

クリークの水を揚水機場でくみ上げ、管水路等により、受益地にかんがい。

2 地盤沈下の抑制

農業用水を地下水等から、嘉瀬川ダムに転換。

受益地区

たけおし おおまちちょう こうほくまち しろいしちょう
佐賀県武雄市、大町町、江北町、白石町の農地約7千ha。

地域農業の状況

水稻を中心に、麦、たまねぎ、大豆、れんこん等を栽培。

～「これまでに経験したことのないような大雨」が九州北部を直撃～

- ・平成24年7月3日、11～14日、局地的な大雨が連続発生、「平成24年7月九州北部豪雨」と命名。
- ・熊本、福岡、大分の3県に大きな被害が発生。
- ・九州の農業被害額556億円(農地・農業用施設被害が9割)。

3県の被害状況

熊本県(阿蘇市、菊池地域、熊本市等)

- ・農地への土砂流入と浸水・冠水
 水稲、葉たばこ、トマト、キャベツ等
- ・ハウスの全半壊、畜舎への土砂流入と浸水
 豚、肉用牛、ブロイラー
- ・農道・牧野道、水路・揚水ポンプ・堰の損壊・埋没

193億円

福岡県(筑後地方等)

- ・農地への土砂流入と浸水・冠水
 水稲、ねぎ、トマト、みかん、ぶどう、茶等
- ・ハウスの全半壊、畜舎への土砂流入と浸水
 豚、肉用牛、ブロイラー
- ・農道、水路・堰の損壊・埋没

161億円

大分県(西部地域等)

- ・農地への土砂流入と浸水・冠水
 水稲、トマト等
- ・ハウスの全半壊、畜舎への土砂流入と浸水
 肉用牛
- ・農道、水路・堰の損壊・埋没

153億円



- 効率的な農業経営の先進事例として、蚕糸・地域特産部門で、福岡県八女市の有限会社グリーンワールド八女が、天皇杯を受賞。

有限会社 グリーンワールド八女

設立：平成12年1月

母体：茶工場を営む3戸の農家

活動：荒茶加工の閑散期に機械・施設を利用して新たな作物に挑戦。
女性の感性を活かしたオリジナルの商品を開発、販売。



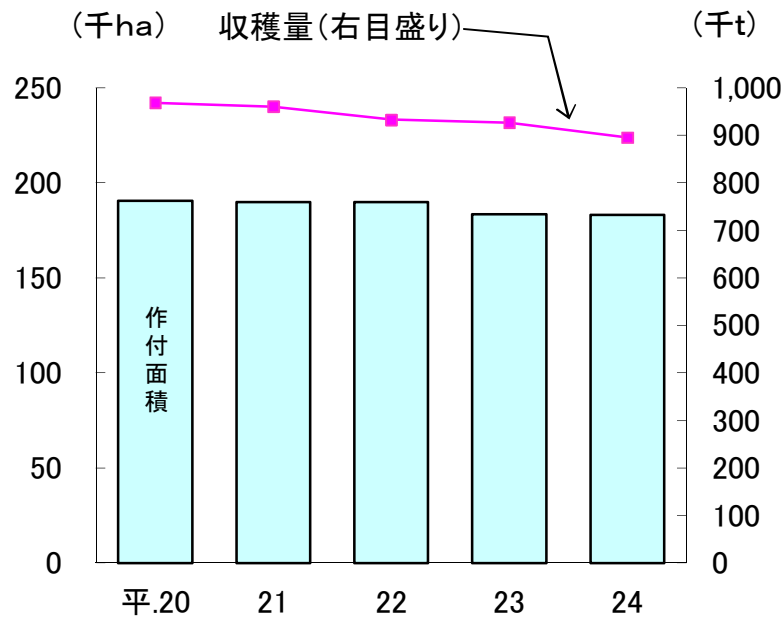
(有)グリーンワールド八女の皆さん



女性の感性を活かした商品

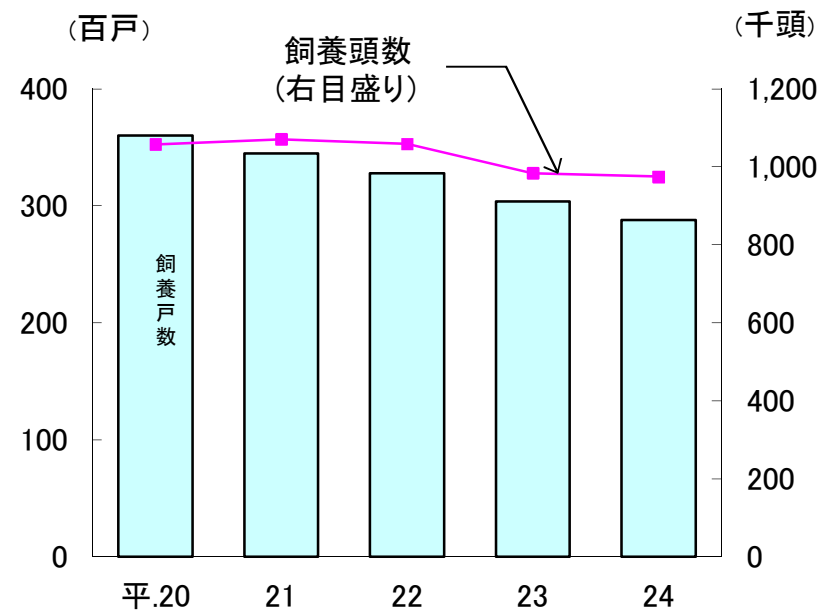
- 24年産の農作物の収穫量は、初期生育の遅れから、水稻と大豆は減少。麦類(4麦)の収穫量は、増加。
- 肉用牛の飼養頭数は減少。乳用牛の飼養頭数は増加。豚の飼養頭数は、宮崎県の口蹄疫からの飼養再開で増加。
(すべて前年との比較)

○水稻の作付面積及び収穫量の推移



資料:農林水産省「作物統計」

○肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移



資料:農林水産省「畜産統計」

- 自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と選択する力を養うための「食育」を推進。
- 麦・大豆等の生産拡大のため、「麦・大豆等生産拡大推進キャラバン」を展開。

食育の推進

- ・ワークショップ形式の意見交換会を11カ所で実施。
- ・HP「九州の食育の広場」で、教育ファームの事例を提供。
- ・九州各地で、食育活動を行う関係者に、交流会と情報提供を行う。
- ・地産地消の推進。

麦・大豆等生産拡大推進キャラバン

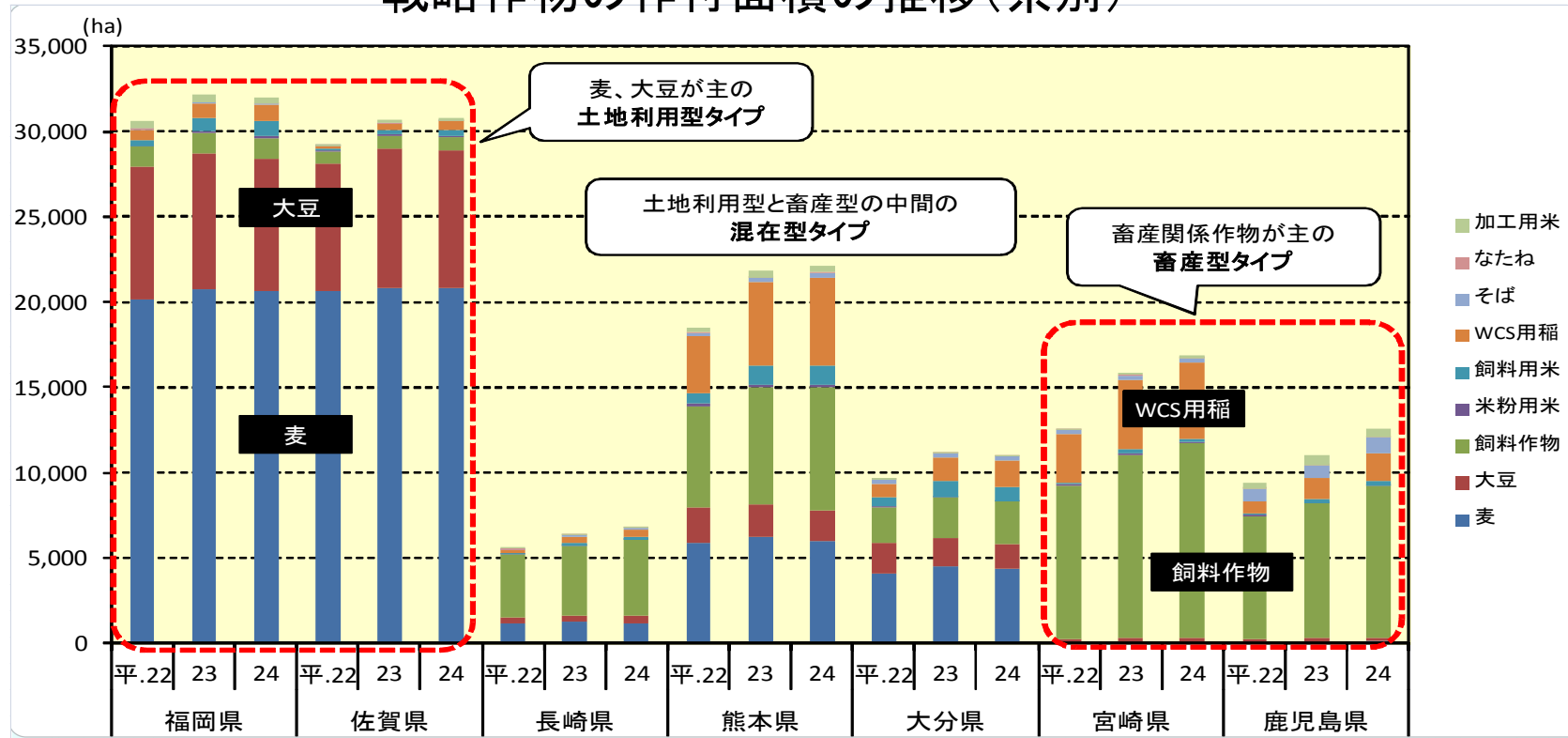
- ・作付拡大の対応方向を作成、各県、農業団体に取組を依頼。
- ・事業を活用しての品種転換や新技術の導入、ほ場条件の改善等。
- ・生産実績、状況把握、推進体制の検証。



大豆の新たな需要開発
大豆パン

- 平成24年度は九州管内で、農業者戸別所得補償制度に19万1,381経営体が加入(前年度から3,798件増加)。
- 戦略作物の作付(計画)面積は、飼料作物、WCS用稲で増加。WCS用稲は、全国の約6割のシェア。

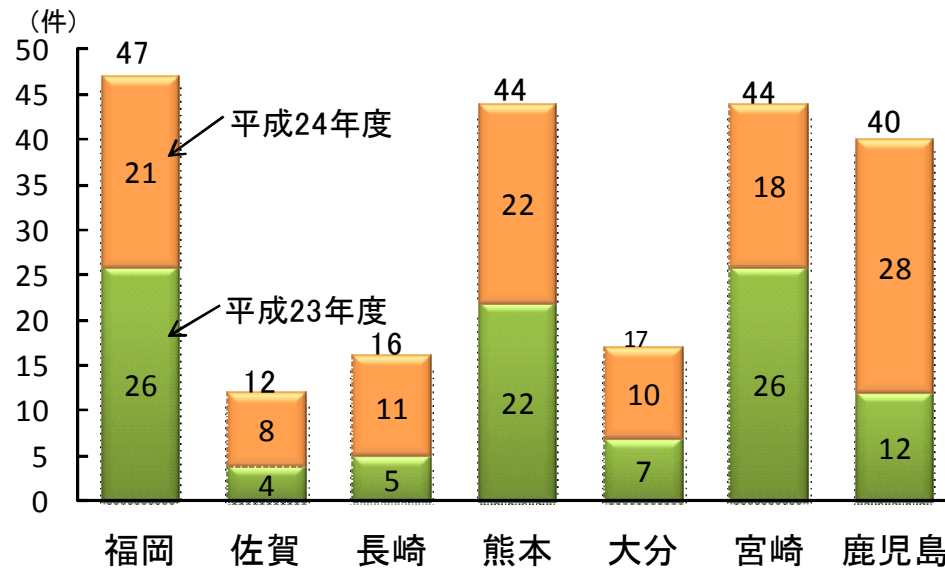
戦略作物の作付面積の推移(県別)



資料: 平.22(戸別所得補償モデル対策)は九州農政局調べ、「平成23年度の農業者戸別所得補償制度の支払実績について」(平成24年6月28日公表)、農林水産省「平成24年度の農業者戸別所得補償制度の加入申請状況について」(平成24年10月17日公表)

- 6次産業化総合化事業計画を平成24年度に118件認定。
(23年度からの累計220件)
- 6次産業化をサポートする人材・体制の整備や九州地域広域交流会の開催、九州農業成長産業化連携協議会の運営を通じて支援。

九州各県の認定件数



資料:農林水産省

《認定事業計画の事例》

北九州農業協同組合
(福岡県北九州市)

業務用「米粉」の
新商品開発及び加工施設
(米粉工房)を利用した
直売所販売事業



玉名市大浜町農業協同組合
(熊本県玉名市)

地域の特産品である
イタリアントマト等を
利用した商品の
加工・冷凍・販売事業



- 農山漁村の活性化に向けて、グリーン・ツーリズムや集落の【協定】に基づく水路・農道等の維持管理、農産物の加工・販売等の多様な取組を推進。
- 一方、農業・農村のもつ多面的機能について、消費者の認知度はまだ低いことから、一層のPRが重要。



グリーン・ツーリズムシンポジウム



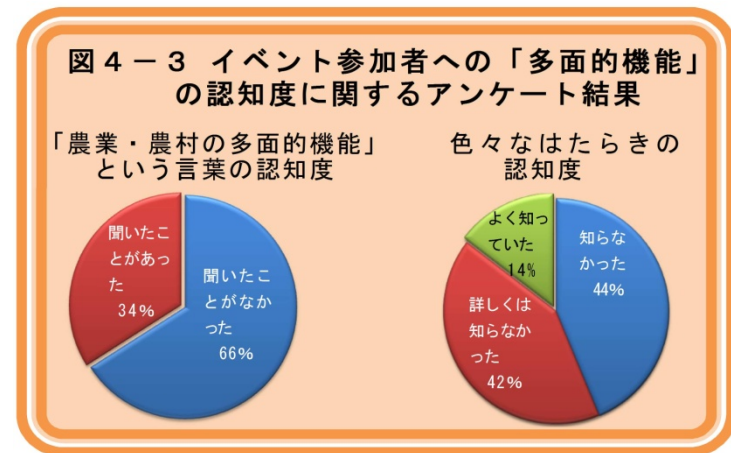
山女魚つかみ取り体験



黒之瀬戸だんだん市場



そば打ち体験



資料：九州農政局



普及パンフレット 農業・農村のもつ多面的機能普及啓発の取組

